

民児協おかやま

岡山市



第41号

平成28年4月1日



濟世

昨年11月8日、「第1回おかやまマラソン」が行われました。全国47都道府県から集まった約1万4千余名のランナーは、中心市街地のジップアリーナ岡山をスタートし、巨大な人波となって市内にぎわいをもたらしました。

中四国最大級規模で行われた今大会の開催が決まってから、市内でも参加に向けてランニングを始める人が増えたそうです。健康寿命が全国平均を下回る中、これをのぼそうという方針を打ち出している岡山市ですが、この大会をきっかけに改善への効果が期待されています。

さて、イベントの主役はランナーの皆さんでしたが、それを支える多くの人々がそれぞれの形でこの大会に関わりました。出場したランナーの感想の中に、「沿道からの応援がすばらしかった」という声がありました。約13万4千人という観戦者の応援はランナーを励まし、後押ししたことでしょ。また、コース沿道の町内会や企業、学校等の多くの地元住民からなる、約4千3百人のボランティアも交通整理や給水ポイントでの補助など、運営に大きく貢献しました。とりわけ、地域に根差した活動をしてられる民生委員・児童委員さんのなかには、ボランティアの中心として参加されている方が多数おり、大会運営への協力を通じて、「沿道からの応援の楽しさを味わえた」との声が聞かれました。

第1回として行われた今大会の大きなにぎわいの後には、参加したランナーが岡山の景色に触れ、人の温かさを感じてもらうことができたという達成感と、一緒になって応援をして大会を盛り上げることができたという一体感や充実感とともに、健康的な生活への意欲が、地元岡山の人々の中で高まっているのではないでしょか。

※次回「おかやまマラソン2016」は、平成28年11月13日（日）に開催予定です。

岡山市民生委員児童委員協議会 事務局



この広報誌は、共同募金配分金の一部をつかって作成しています。

平成二十七年 岡山市民生委員・児童委員大会

十月二十八日、岡山市民会館にて、市内全域の民生委員・児童委員が一堂に会して、平成二十七年 岡山市民生委員・児童委員大会を開催しました。

笠井祥司岡山市民生委員児童委員協議会副会長による開会宣言に続き、国歌斉唱、小銭純宏岡山市民生委員児童委員協議会副会長による民生委員信条朗読、物故者への黙祷が行われました。

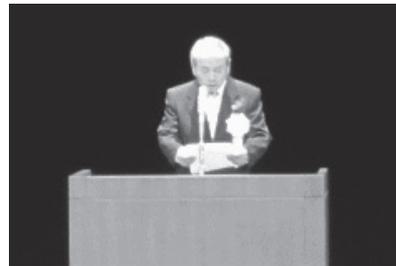
式典では、岸本俊男岡山市民生委員児童委員協議会会長が式辞として、子どもへの貧困や精神的貧困などの様々な福祉課題に直面している現在、地域にあつて各関連機関及び団体とのつながりを築くという役割の重要性を改めて認識し、平成二十九年に民生委員制度の源とされる濟世顧問制度が百周年を迎えることにあたり、先人のご活躍を励みに、社会福祉を支える柱として日々の活動に

取り組んでいこうと決意を述べられました。

また主催者あいさつ及び来賓祝辞では、大森雅夫岡山市長、内田通子岡山市社会福祉協議会会長、小林寿雄岡山市議会副議長が、

それぞれ地域福祉における日々の民生委員・児童委員活動への感謝や期待を述べられました。

今大会では、長年にわたり、民生委員・児童委員活動に尽くされた二十二名の方々が表彰されました。



表彰受賞者

●岡山市長感謝状

大元地区 上田井 保夫

●岡山市民生委員児童委員協議会会長表彰 (永年勤続)

清輝地区 岩藤 清衛
 牧石地区 小野 信彦
 三敷地区 河合 あつ子
 内山下地区 松浦 利子
 吉備地区 佐藤 韶子
 出石地区 辻 清美
 御南地区 青江 美智子
 三敷地区 岡本 千枝
 芳明地区 重成 道明
 旭操地区 畠木 訓子
 旭操地区 西山 初江
 芳明地区 岩藤 修昌

●岡山市社会福祉協議会会長表彰

御野地区 光岡 嘉子
 出石地区 山田 弘子
 西大寺南地区 播野 紀子
 足守地区 福光 光一
 福田地区 大森 夏江
 旭東地区 野崎 実
 御野地区 分島 和美

南方地区 福島 節子
 三敷地区 才田 美子

続いて、高山学岡山市民生委員児童委員協議会副会長が大会宣言を読み、満場の拍手で承認されました。

大会宣言

民生委員制度は、岡山県で濟世顧問制度として創設され、平成二十九年に百周年を迎えます。一方、現在の社会では多様な生活課題を抱え、支援を必要としている人々が増加しています。

経済的困窮や社会的孤立、高齢者、障がい者、児童への虐待や、行方不明となる認知症高齢者の事例など、我々の社会はこれまでにない福祉課題に直面しています。

このような状況において、民生委員・児童委員は、常に住民の立場に立つて活動し、地域の幅広い機関・団体と連携するとともに、住民同士の絆を強め、支え合い助け合う社会の構築に向け一層取り組んでいかなければなりません。

そのため我々は、全国に先駆けて

岡山県で創設された済世顧問制度発祥の地の民生委員として、伝統と社会奉仕の精神を受け継ぎ、民生委員・児童委員活動をさらに充実させるよう、一層の努力をすることをここに宣言します。

大会宣言の後、記念講演として、「認知症を理解し、地域で支えること」と題して、松本診療所（ものわすれクリニック）院長・理事長の松本一生さんに、認知症について、地域包括ケアにおける民生委員・児童委員の役割についてお話していただきました。

記念講演（要旨）

認知症は多くの高齢者にとって身近な問題であり、六十五歳以上の四人に一人が認知症とその予備軍となる計算になります。「もの忘れが激しい」、「判断・理解力が衰える」などの認知症だけでなく、「人柄が変わる」など行動・心理症状が現れる人もいます。自分で気づく場合もありますが、家族などの身近な人が気づくときには、「これまでよ

り怒りっぽくなった」、「何度も確認が増えた」、「家電の操作ができなくなってきた」、「何事にも関心を示さない」、「大きなお札での支払いばかりする」といった症状から三つ以上思い当たれば専門家への相談をおすすめします。また、多くの認知症の人は、「これまでの自分とは違う」、「私はどこも悪くないのに」という感情をもっています。当人も自分の変化に戸惑っているというのを、周りの人たちが認識しておくことで、関わり方が違ってきます。私自身も妻の看護を経験していることから、「治療者より伴奏者でありたい」という思いのもと、日々患者さまのケアに取り組んでいます。同じような思いで見守ってくれる人が増え、誰もが安心して暮らせる地域が増えたらいいと思っています。



平成二十七年 第八十四回 全国民生委員・児童委員大会

北区 御津地区 戸田 元宣



平成二十七年 第八十四回全国民生委員・児童委員大会が、十月十五日から十六日にかけて富山県富山市、

高岡市で開催されました。会場の富山市総合体育館は、三千五百余名という多くの参加者によって埋め尽くされました。森寺獅子方連中による迫力ある演舞で開幕し、全国民生委員児童委員連合会堀江正俊会長の式辞、次に永年民生委員児童委員活動の功績に対しての表彰が執り行われました。

特別講演では、「クロヨンが遺したものの―志の連鎖―」と題して、講師の株式会社熊谷組相談役の大田弘氏によるお話がありました。七年の歳月と五百十四億円の工費、延べ九百九十万人の労働者を投入し、一九六三年（昭和三十八年）に完成し、当時は発電された電気を主に関

西方面に送電しました。以前、映画で「黒部の太陽」を観たことがあり、講話の内容と重なり改めて感動いたしました。

- 二日目は、十の活動交流会で専門家との熱心な討論がなされました。
 - 一「高齢者が安心して暮らし続けることができる地域づくりの推進」
 - 二「障がい者が生活しやすい地域づくりのために」
 - 三「子どもたちが健やかに育つことができる地域づくりの推進」
 - 四「災害に備える民生委員・児童委員活動」
 - 五「生活困窮世帯の自立支援を進めるために」
 - 六「住民参加による支え合いによるまちづくりの推進」
 - 七「課題を抱える親子への相談支援活動の推進」
 - 八「地域の関係者の連携による子どもへの貧困対策の推進」
 - 九「民生委員・児童委員が活動しやすい環境整備のために」
 - 十「これからの民生委員活動のために百年の歴史に学ぶ」
- 来年度、第八十五回全国大会は香川県で開催されます。

「マイナンバー制度」

平成二十七年十月五日にマイナンバー法（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律）が施行され、平成二十八年一月から、社会保障・税・災害対策の分野の事務手続において、申請書等へのマイナンバーの記載をお願いしています。

○マイナンバーとは

国内に住民票を有する方ひとりひとりに指定された十二桁の数字です。マイナンバーの利用により事務処理に必要な情報を正確に把握することができるようになり、添付書類の省略や行政の効率化が可能となる他、課税や社会保障給付をより適正に行うことが可能となり、公平公正な社会を実現します。

○マイナンバーを取り扱う事務

マイナンバーは原則として市役所や税務署、ハローワークなどの行政機関が、法令で定められた事務処理に必要な範囲で利用しますが、例えば税務署等に提出する書類の作成のために、従業員のマイナンバーを雇

用主にあたる民間事業者が収集することも認められています。

○個人番号カードとは

任意の申請により、「個人番号カード」を交付することができます。個人番号カードは、顔写真付きの本人確認書類として、またマイナンバーの確認書類として利用できます。カードに搭載される電子証明書を利用すれば、e-Taxや住民票等のコンビニ交付サービス等を利用可能です。

○マイナンバーをかたった詐欺にご注意！

「マイナンバー制度の導入に伴い個人情報や保険の契約状況を聞き出そうとする不審な電話や訪問調査の事例等が報告されています。あやしいと思つたら、消費者ホットライン（お問い合わせ…一八八）にご相談ください。また、制度に関するお問い合わせはマイナンバー総合フリーダイヤル（〇一二〇―九五―〇一七八）をご利用ください。



愛称：マイナちゃん

旭川荘へのボランティア活動で感謝状をいただきました！

地域福祉推進部 部長 旭竜地区

泉 照子

平成二十七年十一月十日に行われた「旭川荘創立六十周年記念式典」において、岡山市民生委員児童委員協議会（民児協）は、同地域福祉推進部によって永年続けてきた旭川荘へのボランティア活動に対して、表彰を受け、感謝状をいただきました。

岡山市の民児協（地域福祉推進部）では、以前より、旭川荘の利用者に対する奉仕作業を行っており、現在は各地区の協力のもと、毎週月曜日（祝祭日・年末年始等を除く）の午前十時半から正午までの間、当番制で旭川荘への様々な活動を企画、実施し、定例の地域福祉活動としてきました。

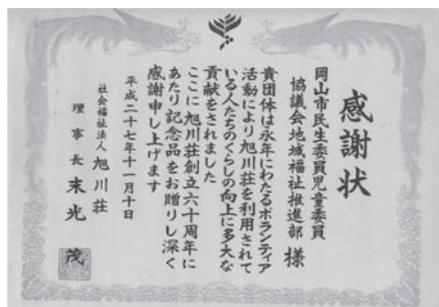
これらの活動の一つに「おしめたみ」という作業があります。この活動は、利用者が使用したシーツやおしめをクリーニング後に私たちの手によって、一枚ずつたたみ込むというものです。利用者の日常生活に欠かせ

ないシーツやおしめは、相当な量であるため、旭川荘を支えているスタッフの方からは「とても助かります」とのお声もいただいております。

近年、旭川荘では、利用者の生活支援に加えて、自主性尊重や地域住民との交流促進のため、利用者による音楽活動や地域活動にも特に力を入れておられます。

地域福祉推進部のボランティア活動もこうした新たな取り組みへの参加や付き添いなど、利用者本人に直接関わる活動が中心となってきました。利用者とのふれあいでは、むしろ私たちのほうが学ぶことも多く、みなさんと有意義な時間を過ごさせていただいております。

今後も、旭川荘でのボランティア活動をはじめとして、地域に密着した福祉活動を推進して参りたいと思っております。



「部員視察研修について」

地域福祉推進部 副部長 芥子山地区

早坂 勝男

地域福祉推進部は、多様化する福祉問題に対応するために教養を高め、地域のようなニーズに対応できる人材を育成すること、また活動を通じて民生委員・児童委員の活動推進を図ることを目的としています。これまでには子どもや高齢者に関する問題について研修をしてきました。今年度のテーマは障がい(精神・身体・知的)であり、今回の視察研修先は倉敷市にある「社会福祉法人クムレ生活介護事業所コトノハ」、「児童発達支援センター倉敷学園」、「児島障がい者支援センター」の二か所とし、十一月十八日に実施いたしました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、五十三名の参加で市営駅南駐車場を出発し、最初の研修先である「社会福祉法人クムレ」に到着しました。管理者の上村様からの映像による紹

介では、子育て支援、発達支援及び自立支援の三事業を展開し、二十六の事業所で運営していること。子育て支援事業部は水島、発達支援・自立支援事業部は倉敷(中庄)を拠点に事業展開し、0歳児から高齢者まで様々な福祉ニーズに合わせ、相談支援から直接的な支援まで対応していることなど丁寧な説明をしていたいただきました。因みに法人の名前の「クムレ」とはラテン語の引用で、「共に生きる」という造語だそうです。最初に案内されたのが、障害者総合支援法によって運営されている「生活介護事業所コトノハ」です。障害程度区分の三から六で常時介護を必要とする方に対し、主として日中において日常生活(排泄、食事等)の介護・創作活動や生産活動の機会を提供する生活介護施設です。開所から九年目の現在、四十名の定員に対し五十七名が利用されており、利用者の方の平均年齢は三十四歳だそうです。利用者一人ひとりの可能性

を見出すために取組んでいる文化活動の一環で描かれた絵画は、カラフルに彩られており、温かみのある作風でした。生産活動の受託作業としてフルーツネットや割箸の袋入れ作業を真剣にされており、私たちの日常生活に利用されているものが障がい者のみなさんが協力して生み出しているものだと思うと、頭の下がる思いでした。

次に案内されたのが、隣の棟にある「児童発達支援センター倉敷学園」です。ここは、なんらかの障がいや発達の遅れのあるお子さんが利用する施設で、保護者との情報交換を基に、一人ひとりのお子さんの個別支援計画を作成するなどの療育を行っています。開園から三十七年を迎える現在、六クラス五十名の定員に対し六十二名が利用されており、軽度の障がいがある人が三分の二、重度が三分の一だそうです。ドアを開けて部屋に入るなり、数人が待ち焦がれたかのように笑顔と大きな声であいさつしてくれたのが印象深かったです。

午後からは「児島障がい者支援センター」を視察しました。この施設



は、障がいのある人が気軽にくつろげる憩と交流の場を用意され、心の悩みや福祉制度の利用をはじめ様々なことについての相談をすることができ、また、生活の質を高めるためのプログラムやレクリエーションを開催している施設です。カラオケやパソコン、卓球台などで楽しむこともでき、バス旅行なども企画しているとのことでした。

今まで視察研修と言えば、県外に視察先を選びがちでありましたが、今回の研修で岡山市の近郊にも利用者のニーズに対応した素晴らしい施設があることに気付くことができたのが収穫となりました。

●●● 北区北福祉区 ●●●
「全体研修会」

建部地区民生委員児童委員協議会

会長 本田 茂子

例年よりも一足早く、白梅・紅梅もほころび、暖冬といわれる中で迎えた二十八年の穏やかな年の始めのんびりと過ごしていたところ、研修会の日が近くなるにつれ予定外の近年にない強い寒波の到来の報せ。とうとう一月二十日には、我が家の周辺は一変して一面の雪景色となりました。

そして迎えた一月二十一日の朝。暦の上では「大寒」のこの日に、北区北全体研修会が開催されました。「極寒に見舞われるが、春の兆しあり」の言葉どおりに心配された前日の雪も溶け、早速会場準備に取りかかりました。

北区北福祉区管内の八地区民児協委員が建部の地に集い、お互いの健康とますますの活躍を誓う中での幕開けとなりました。民生委員児童委

員信条唱和の後、今回初めて民生委員の歌「花咲く郷土」を全員で合唱し、歌詞に込められた想いを一人ひとりが心に深く受け止めていました。

当日は、講師に社会福祉法人南野育成園理事長の叶原士筆先生をお迎えし、「あなたに出会ってありがとう」と題して講演をしていただきました。永年にわたり福祉の道一筋に歩んでこられた先生のお話を聞ける機会を、全員が楽しみに待っていました。

壇上に立たれた叶原先生の第一声は、はつきりと元気な声での「みなさん、こんにちわ！」でした。ホール全体に響き渡るあいさつに、こだまの様に「こんにちわ！」と全員の声が返ってきます。「あいさつは、人と人をつなぐ魔法の言葉」を motto とされる先生らしく、優しい笑顔も忘れませんでした。

子どもたちにとって、「おはよう」

「行ってお帰り」などあたりまえのあいさつが、相手の顔を見て自然にできる家庭の大切さを一番に話されました。その中で、「人生は出会いでつくられる。良き師に出会えば良い人生が導かれる。」という言葉がありました。子どもにとって、自ら親を選ぶことはできず、近年では親子を取り巻く環境も様々で、普通であることのむずかしさを感じる日々です。

「あなたが大切だ」と誰かに言ってもらえるだけで生きてゆける。そして自分の存在を認められるだけで、人はもつと強くなれ、夢をもつて自分の足で一步を踏み出すことができるはず。その誰かが、一番身近な親であれば本当に嬉しいことです。

子どもには、「愛と思いやり」のある価値観を与えたい。そのためには、子どもの周囲に良い手本がなければならぬのです。「なつてほしい子どもの姿」を親や教師も自ら示す努力をしなければならぬと。

三十年間、子どもたちと寝食をともにし、たくさんのお話を聞いてこられた先生の言葉は、これからの私

ちの生き方を問われていて、ようでした。F1レーサーのアイルトン・セナの言葉の中に、「この世に生を受け

たこと、それ自体が最大のチャンスではないか」というものがあります。生かされた命に感謝し、積み上げてきた命を周りのために使うことにながると強く思いました。まだまだたくさんのお話がありました。まだ、叶原先生にお会いできたことに「ありがとう」。

そして、民生委員という仕事で出会ったすべての人々に「ありがとう」と思うところです。たくさん仲間や支え励ましてくださるみなさまのおかげで、無事に今日を終えることができ感謝です。百周年に向け、頑張る力を少しもらいました。





南区南福祉区の取り組み

●●●南区南福祉区●●●

岡山市社会福祉協議会 南区南事務所

平成二十六年より、岡山市社会福祉協議会では、各福祉区民生委員児童委員協議会の事務局を担わせていただいております。南区南福祉区民生委員児童委員協議会（以下、当協議会）では、南ふれあいセンターにおります岡山市社会福祉協議会職員二名で、当協議会の事務局業務や岡山市社会福祉協議会の業務を行っております。

当協議会の全体の活動としましては、総会をはじめ、年二回の全体研修会と役員の視察研修、オレンジリボンキャンペーンなどがあります。昨年八月に行いました全体研修会では、社会福祉法人南野育成園理事長の叶原土筆氏を講師にお招きし、「あなたに出会ってありがとう」と題して児童福祉の歴史や最近の児童福祉の現状など具体的な話をもとに研修しました。また、十一月には福浜学

区で行われている防災体験収穫祭の会場で、地区会長と主任児童委員が集まり、作成したオレンジリボンを配布し、オレンジリボンキャンペーン活動をしました。一月には愛媛県松山市にあります「託老所あんき」を訪問し、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援について視察研修、また二月には、岡山市こころの健康センターの方に「精神障害者の対応の仕方について」と題して研修を行いました。

当協議会では、会長連絡会・地域福祉推進部・主任児童委員部会の三つの部会でそれぞれ活動も行っています。

会長連絡会では、当協議会の全体活動の検討や、各地区の情報交換などを行っています。

地域福祉推進部では、成徳学校の視察や慈圭病院でのメンタルヘルス講座を行ったり、警察署の方を講師に招いて特殊詐欺についての研修を

行ったりしています。また、中区のある町内会で積極的に見守り活動を行っている方々の活動を聞き、地域における見守り活動についての研修も行いました。

主任児童委員部では、北区北福祉区の主任児童委員の方と合同で学校法人「おかやま希望学園」（吉備中央町）に視察研修に行きました。また、岡山市教育委員会の方から「発達障害・不登校について」と題して研修を行い、その後NPO法人「人ふれあいひろば」理事長の藤井弥生氏を講師に招き、子どもの発達障害についても勉強し、子どもたちを取り巻く課題に対応していくためにも研修を行いました。また、二十六年度は南区南福祉区管内の各中学校と小学校との情報交換を行い、日頃からのつながりの重要性を再確認しました。このように多くの研修や情報交換を行うことで、日頃の民生委員・児童委員活動のさらなる向上に努めています。

各福祉区民生委員児童委員協議会の事務局を担うようになったことで、民生委員・児童委員の方々とよ

り密につながることで、岡山市社会福祉協議会の活動の場もさらに広がってきたように感じております。そのつながりを今後さらに深め、民生委員・児童委員活動が一層充実するためのお手伝いができるよう努めていきたいと思っております。

またこの機会に皆様方にも岡山市社会福祉協議会をより身近に感じていただければ幸いです。日頃の岡山市社会福祉協議会の活動は、本会のホームページで随時紹介させていただいておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

福祉区民生委員児童委員協議会の事務局として、岡山市社会福祉協議会として今後も精進してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。



肥田さん

酒井さん

わたしの趣味

「福浜幼稚園児と芋ほり遊び “芋づくり名人・8年連続大豊作”」



南区福浜地区 猶原 嗣雄

「植物画 (ボタニカルアート)」

※ボタニカルアート…
草花を科学的に正確に描出
するもの



花名「オーニソガラム」花言葉：潔白、純粹
東区西大寺地区 谷田 繁美

「短歌」

終に白き花咲きて冬枯れの
庭に彩り添へて呉れたり

東区西大寺地区
日笠 眞佐子

山茶花の花咲く道辺にはや春の
兆しの水仙つぼみ見えをり

◆委員より◆ 「わたしの趣味」を募集します。写真・絵・工芸・俳句など自薦他薦は問いません。事務局までご連絡ください。事務局 (福祉援護課内) ☎086-803-1218

昨年は、寒冷多雨など、天候異変の一年でしたが、今年は正月から暖かく穏やかな日が続き、中下旬からは梅の花が各地で咲き、きつと今年は平穏な一年になるのかなど期待しています。
「民児協おかやま」第四十一号をお届けします。今号は対外的なPRも兼ねて、表紙に中国最大級の一万四千余名のランナーが参加した「第一回おかやまマラソン」を取り上げました。また、市民児協の動きとして、全国大会への参加、地区民児協の活動や地域福祉推進部視察研修、わたしの趣味欄等々、少々欲張って編集いたしました。
ご多忙にもかかわらず、ご寄稿をいただいたみなさまに、広報委員一同感謝する次第です。
最後に、今年には民生委員・児童委員の一斉改選の年にあたります。さらなる社会福祉の向上に向けて、新しい年度を力一杯踏み出されますよう、みなさまのご活躍を期待して、編集後記とさせていただきます。

山本 周二 記

編集後記